

# のぎくぐみだより 2冊

担任： 藤戸

～子どもの姿～

肌を刺すような冷たい風に頬や鼻を、お子さんたちは真赤にしながら登園してきてくれ、毎日元気がいい。うさぎさん、りすさんになつて遊んでいます。先月は、うさぎさんが広場で転んで怪我をした時、みんなが心配した話をしました。のぎくのうさぎさん達はどのようにあげようかな、とみんなで相談して、お薬は、ぼを探することにしました。「どこにあるのかな?」「木のおじちゃんなら知っているかも!」「干ヨロ君にもきいてみようよ!」と木のおじちゃんや干ヨロ君のお家に向つて「お薬は、ぼ知ってるー?」と尋ねてきたり、お薬は、ぼを見つけると、「あ、たよ!」とお薬は、ぼを摘んで「うさぎさん、痛いって、だから持ってきてこうよ!」とお友達とうさぎさんに持って行ってあげたり、お友達が転んぼりして痛がっているのを見ると、「大丈夫?」と心配してあげている姿に触れると、誰に対しても優しくやる心がある、ているんだなあ〜と嬉しく思います。

又、お友達との遊びも活発になり、ルールのない遊びよりも、ルールのある遊びが楽しくなつて「今日は何して遊ぶのかな?」と言うと次々にしたい遊びを言つて集団遊びが増える毎日です。遊びの鬼決めも、前までは勝ち負け関係なく、全部勝ち!だったのが、「僕、ぐーだから〇〇ちゃんの勝ちだね。」など、勝負も少しずつわかるようになってきました。

今日も、その気になつて遊ぶ楽しさを味わい、残り少ないのぎく組さんの日々を大切にしていきたいと思ひます。



～自分の事は自分でしているよ～

お子さん達は今、自分の事は自分でできるようになりました。少しでもできる事があると「これ手伝って。」と保育士に伝え、一緒にしてみたり、見守りしている中で、少しずつ、自分でできた喜びや達成感を味わっています。

ご家庭でも、お忙しい中ではあると思いますが、お子さん達の自立に向けて、見守り、応援してあげて下さい。

